

【会議結果】

会議名	令和5年度 第3回碧南市地域公共交通活性化協議会
日時	令和6年3月4日（月） 午後2時～4時
場所	碧南市役所 7階議員大会議室
出席者	碧南市地域公共交通活性化協議会委員16名（内代理出席 4名） 事務局4名、コンサルタント2名 （欠席：レスクル美浜営業所課長 天野委員、愛知県知立建設事務所 渡辺委員）
傍聴者	名

議事

1 会長あいさつ

○金沢会長（碧南副市長）

本日はご出席いただき誠にありがとうございます。

昨年11月の第2回会議で、地域公共交通計画の第6、7章のご議論を頂いた。

その後、ひと月かけてパブリックコメントを行ったので、後ほど事務局から説明がある。

今回が今年度最後の会議となる予定ですので、活発なご議論をいただきたい。

2 議題

(1) 碧南市地域公共交通計画の確定について

○事務局

- ・資料1について説明

質疑応答

○潮田委員（愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長）

パブリックコメントについて、No.1は8件とあるが、提出人数は6名となっている。

同じ人が同じ趣旨のことを重複して提出したという認識でよいか。

○事務局

同一の方が同趣旨の意見を複数提出されたのでカウントとしては8件となっている。

○加藤委員（名鉄バス株式会社運輸本部 交通企画官（ふれんどバス））

これは協議となるのか。

○事務局

本日の会議で協議し賛成をいただき、地域公共交通計画を確定したい。

○金沢会長（碧南副市長）

他に質疑等ないので、議題(1)について、賛成の方は挙手を願いたい。

（全員挙手）

○金沢会長（碧南副市長）

挙手全員ということで承認された。

(2) 令和5年度碧南市地域公共交通活性化協議会収支決算（見込み）について

○事務局

- ・資料2について説明

質疑応答

○金沢会長（碧南副市長）

監事である小田委員より、収支決算についての監査報告をお願いします。

○小田委員（碧南市民生委員児童委員協議会代表）

監事を代表して、令和5年度碧南市地域公共交通活性化協議会の収支決算について、適正に行われたことを認めたと報告する。

○潮田委員（愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長）

収入の部で前年度の繰越金があり、今年度は戻入として市の一般会計に戻すといっていたと思うが、前年度繰越金となるのと戻入となる違いを教えてください。

○事務局

昨年度から今年度にあたる令和4～5年度は、碧南市で初めて地域公共交通計画を策定するというので、このような協議会を立ち上げて策定してきたが、それに際して外部事業者へ委託が発生したため、別会計を設けて会計の整理をした。

来年度以降は委員の方々にお集まりいただきながら計画の検証等を進めていくが、別会計を設けることなく、一般会計から謝礼等の処理をしていきたいと考えているので、今年度の決算で発生した残額は一般会計に戻入れして、別会計を閉じたいと考えている。

○潮田委員（愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長）

来年度以降はこの会計の確認は不要になるということか。

○事務局

その通りである。

○金沢会長（碧南副市長）

他に質疑等ないので、議題(2)について、賛成の方は挙手を願いたい。

（全員挙手）

○金沢会長（碧南副市長）

挙手全員ということで承認された。

3 その他

○長田委員（碧南商工会議所会頭）

タクシーについて、昼間は忙しくて断られることが非常に増えている。

他のタクシー会社が碧南地域に入ってくる可能性はあるか。

○潮田委員（愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長）

タクシーは認可事業であるため、事業エリアが決まっている。碧南市は東三河地域に設定されており、国が定めた準特定地域という台数を増やせない地域に認定されている。

この地域の中では決まった台数以上には増やせない状況である。

地域内の事業者が碧南市で営業をする意思があれば、事業所を作るというのは理論上不可能ではないが、現状はどこの地域も運転手不足で、車はあるが運転手がないという意見をもらっている。

運転手の採用活動を積極的にしているが、なかなか人が集まらない背景がある。

こういうことを踏まえて、都心部ではライドシェアの議論が色々出ているが、安全上等の課題もあり、部分的に進んでいない状況である。

今は法改正等に向けて、近々ではタクシー会社が一種免許の人を直接雇用して、タクシー会社の管理下で営業するというかたちで、法令が定まっていないが、最終的に法令が通ればそれも可能になる。東京等のもっとタクシーが足りない地域ではそういう動きがある。

愛知県タクシー協会としては、愛知県ではどのようなかたちが良いか、愛知県のモデルを検討して対応策を考えている。

碧南市では現在2社が運行しているが、コロナ時に名鉄知多タクシーさんが撤退されたので、台数が減っている状況である。近隣でも高浜市では三河タクシーさんが廃業、安城市では安城交通が廃業し台数が減っている。碧南市の近隣では事業の継続が厳しい会社もあり、今は供給力が落ちている。

○長田委員(碧南商工会議所会頭)

デイサービスの方々には昼間時間があるため、公共に入れなにかという質問をよくされる。

○潮田委員(愛知県タクシー協会刈谷碧南支部長)

将来的に公共交通活性化協議会の中に福祉有償運送協議会もおこむ話もあるが、碧南市には別に福祉課が主催で行っている福祉有償運送運営協議会がある。福祉の登録事業者が認可を受けて白ナンバーでタクシーの半額くらいで有償運送を行える仕組みがあり、8割くらいの事業者が認可を受けているが、碧南市は近隣の自治体に比べて登録者や利用者が少ない。

そういうご意見があるのであれば、福祉課と連携して進めていくのがよいのではないかと。

昔は福祉有償運送運営協議会がタクシー事業を圧迫するのではないかと懸念から参加していたが、今は供給力不足なので行えるのであれば市民の方に是非活用していただきたい。高齢者や福祉有償運送が必要な方はそちらを活用していただき、普通タクシーはその対象者に活用してもらおうというかたちで市民サービスが拡充できるとよい。

○長田委員(碧南商工会議所会頭)

福祉課さんにご相談してみる。

○事務局

今のご意見のように、市の内部でも協議会に福祉や介護の部門も含めていきたい。

建設部長が道路管理者という視点でこの会議に参加しているが、福祉有償運送の観点も今後必要となってくるので、来年度以降は、この協議会に担当部署や民間事業者にも委員の構成として検討していきたい。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

後期高齢者の免許返納についてのデータはあるか。

○事務局

事務局では返納率の推移は持ち合わせていない。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

75歳となる自分もまだ返納は早いと考えているが、返納された方に後悔しているという話を聞くことがある。今後、高齢者は増えていき、どうしても交通機関は必要。警察とタイヤアップ等はないか。

○事務局

免許の返納は高齢化が進む中で大きな課題だと認識している。その中で、公共交通については持続可能なかたちで構築しなければいけない。サービスの質を上げると事業費的に継続が難しくなってくる。一律何歳で運転が危険ということではないと思うので、安全性に配慮して、自家用車を活用して移動手段を確保するのも必要だと思う。こうした問題が進む中で、現状ある公共交通機関だけでは賄えきれなくなるので、この公共交通計画の中で協議していただいたように、くるくるバスを補完するタクシーやライドシェアを含めながら検討していきたい。

協議会の立ち上げ前だが、免許返納の推移を調べたことがあり、池袋で高齢者の運転で死傷者がでた事故が報道された時、一時的に免許返納者は増えたことは確認している。

その後、返納率が上がることはないが、車に安全装置を付ける補助制度を行っており、安全に運転することを進めてきており、高齢者も安全に乗れるようになれば、出来るだけ自力で移動できることを進めるのもひとつの考え方ではないかと思う。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

免許を返納した場合に何かメリットを付けるということも考えてほしい。

○鳥居委員(市民公募)

高浜市でコミュニティバスを廃止し、アイシンとの協力でデマンドを進めていくことをテレビで見たが、碧南市では考えていないか。

○事務局

高浜市では路線バスの利用者が少ない現状にあり、デマンド型に転換する実証実験を進めていくということだった。

碧南市では利用環境の改善等をしながら、新しい公共交通についても並列して検討していきたい。

○堺委員(中部運輸局愛知運輸支局主席運輸企画専門官)

公共交通計画が策定されたのは一区切りではあるが、これからも持続可能な公共交通を作っていかなければならない。そのうえで、バスが中心になっているが、タクシー等も含めて重要な公共交通を担っているので、取組みに掲げているものをPDCAサイクルに則って進めていくことが今後重要になると思う。

交通不便地域がでてきたら、その対応もこの会議の中で検討を重ねて地域に合った公共交通を考えていければよい。

○伊藤委員(碧南市老人クラブ連合会 信和会 会長)

老人から、介護施設の周囲にあいている車が多くあるが、介護施設の車を使うわけにはいかない

のかという意見がある。老人クラブ員の意見ですが、参考にしてほしい。

○事務局

介護施設の送迎車両は朝夕に稼働して、昼間は空いているということがあり、施設利用者以外にも輸送したいという声我々にも届いている。

無償の運送をするのは問題ないが、有償の運送をするとなるとライドシェアのガイドラインをクリアしなければならず、まだガイドラインが策定中なので、今後の動向で社会福祉法人と連携して検討していきたい。

○小田委員(碧南市民生委員児童委員協議会代表)

パブリックコメントの提出人数が6名というのは想定範囲内か。

○事務局

我々としては広く意見を徴収したいと思い公開している。見込みがあってやっているわけではない。その中で6名の貴重な意見があったと事実として受け止めている。

○岩崎委員(四日市大学学長)

こういうかたちで公共交通計画はまとまった。これを手掛かりに更に充実をさせていく。

ニーズ調査をしながら、介護、福祉施設の昼間に余っている車を使えないか、企業の送迎バスの台数を把握しているので同様に昼間使えないか等、様々な公共交通手段を組み合わせたい。

地域の交通手段を総動員して移動困難者の対応をしなければならないと国も言っている。

資源を見直して、企業の送迎バスは企業の社会貢献の中で使えないという働きかけをするなど、これから計画的に行っていくことになるだろう。

碧南市で厳しいのは、くるくるバスの利用者は結構多いが、利用者からもっと活用するには便数を増やして欲しいという声が多く、便数を増やすための財源確保を市民に納得してもらおうかだと思ふ。公共交通計画の第7章でもふれているが、くるくるバスの費用負担を減らすには、もっと利用者が増えなければならないが、利用者を増やすだけでなく、どのように費用負担を考えていくかが大きな課題である。

また、くるくるバスのルートから外れている地域は他の移動手段を考えなければならないが、他市町の事業事例を参考に最善の組み合わせを考えていかざるを得ない。

そのためにも、運転手不足を解消しなければならない。三重県では二種免許の取得が困難な地域もあるようで、外国人雇用も検討させているが言葉の問題もあり難しいようだ。

そういった問題も含めて、今後5～10年間に増えていきそうな移動困難者にとって最善の移動手段の組み合わせを考えていかなければならない。

まずは利用してもらうことが中心となる。

先日、四日市の地元の企業から資金を得て回数券は自治体を通じて購入してもらい、行政は50万円程度の負担で運行しているNPO自主運行バスの20周年記念講演会で、公共交通に詳しい名古屋大学の加藤先生がアンケート調査の「いずれ乗る」と回答した方は乗ろうとした時には歩行困難になっており信憑性がなく、それより、どうやって利用してもらい、乗って移動して会話を楽しむことをしていくことが重要とおっしゃっていた。公共交通を利用することを楽しめること

を今後は検討していきたい。

健康な若い世代には、自転車の活用をサイクルシェアやサイクルトレイン等で関連機関と協議して公共交通のひとつとし位置付けたい。

あらゆる交通手段の活用を検討していかなければならず、その基となるのがこの公共交通計画である。

○事務局

2年間にわたり協議いただき、ありがとうございました。

今後は、碧南市地域公共交通活性化協議会委員については2年間で委嘱機関が満了となり、令和6年4月に委員委嘱に関わる紹介をする予定なのでご承知いただきたい。

協議会の開催時期については、今回は令和6年2月ごろを予定している。当該年度の事業評価及び次年度の事業計画の協議を行う。

また、令和7～10年度は国の評価結果等で協議が必要となることもあるので、必要に応じて6月頃にも開催し、定例では6月と2月の2回の協議会開催を予定している。

今後は、市と関係協力者のもと、準備、検討、実施、改善等を行っていくので、協議会委員の方には碧南市の地域公共交通活性化を図るべく、ご協力願いたい。

実施事業にある、くるくるバスの利用環境の改善を図るべく、現在、9店舗の商業施設とバス停の移設について協議を進めている。

現状、ピアゴ碧南東店は隣接する市道にバス停を移設したうえで、敷地内に屋根とベンチを設ける内容で協議中である。

ドミー新川店、ドミー大浜店、バロー碧南城山店、イクタフード食彩館は前向きに検討すると回答を得ているので、今後、改めて本部と協議予定である。また、アオキスーパー碧南店、カネスエ碧南幸町店、ゲンキー金山店、バロー碧南店は駐車場自体が狭く敷地内への乗り入れは難しいという意見があった。

今後、くるくるバスのバス停移設に関しては、くるくるバス利用促進協議会を開催して協議していき、結果を次回2月頃に開催予定の協議会で報告する。

碧南3大花まつりとチーズスタンプラリー「碧南と#チーズだらけ」の紹介を行った。